

FTC AI活用ガイド

# MT5のAIボタン 利用方法と活用事例

料金の実態から、通常の使い方、実際に試した結果、  
「ここまでできる」活用事例5選まで。

FXトレードコミュニティFTC

## はじめに

MetaTrader 5に、新しくAIボタンが追加されました。画面上部の★マークです。

押したことはあっても、「なんとなくチャットができる機能」くらいの認識で閉じませんでしたか。私はそうでした。

このPDFでは、

- 料金はかかるのか、かからないのか
- メタトレーダー内蔵AIの使い方
- 「そこまでできるのか」活用事例5つ

をまとめました。「実演」の章は私自身が実際にAIアシスタントへ質問した結果そのものです。それ以外の使い方は、実際に手を動かして確認したレビュー記事や公式情報をもとにしています（④⑤は仕組みの存在は確認できましたが、実践報告までは見つけられていません）。あなたがMT5を使い始めたばかりでも、上から順に触っていけば迷わないように、手順を1つずつ書いています。

---

## 料金について（先にここだけ）

現時点（2026年8月）では、**無料**です。MQL5.communityアカウントでMT5にログインするだけで、「MQL5 Lite」という無料プランが自動で有効になります。追加の申し込みや支払いは不要です。

ただし、運営元のMetaQuotes社は「将来的にMQL5口座の残高から課金できる仕組みを準備中」とアナウンスしています。上位プランの価格や条件はまだ公表されていません。つまり今は無料期間中、という位置づけで捉えておくのが正確です。

---

## 事前準備

1. MQL5.communityアカウントを持っていない場合は、mql5.com で登録します（無料）
2. MT5を最新版に更新します。ヘルプメニューから「アップデートの確認」を実行してください（Build 6060以降が対象です）

3. MT5のメニュー「ツール」→「オプション」→「Community」タブから、MQL5アカウントでログインします
  4. ログインが完了すると、AI機能（MQL5 Lite）が自動で有効になります
- 

## AIボタンの場所と基本操作

MT5画面上部にある★（星形）アイコンをクリックすると、AIアシスタントのチャット画面が開きます。

あとはチャット欄に、やりたいことをそのまま日本語で入力するだけです。専門的なコマンドを覚える必要はありません。

---

## 通常の使い方

AIアシスタントは、公式に次の7つの用途で使えるとされています。

1. **市場・取引分析**：レート、スプレッド、ローソク足、ニュース、口座情報などを読み取って解説してくれる
2. **状態確認**：保有ポジション、取引履歴、サーバー時刻、エラーログの確認
3. **ターミナル操作**：銘柄の追加/削除、チャートの開閉、テンプレート適用、インジケーターの追加
4. **トレード実行**：成行・指値・ストップ注文（発注前に確認画面を出す設定を推奨します）
5. **Webリクエスト**：外部情報の取得
6. **コード開発**：MQL5コードの生成、エラーの指摘、改善提案
7. **自動化**：EA（自動売買プログラム）の作成、バックテストの実行と結果分析

「これは何を意味するインジケーターですか」「この時間帯のニュースは何がありましたか」といった、雑談に近い質問から始めても構いません。

---

## 実演：たった一言で、ここまで返ってきました

ここまで読んで「本当にそんなことができるのか」と思われた方のために、実際にAIアシスタントへ3回続けて質問した結果を、要約せずそのまま載せます。

### 質問1：「現在の相場状況を分析してください。USDJPY」

AIの回答（原文）

#### USDJPY 相場分析（2026年8月14日 16:50 JST / 07:50 UTC）

##### 1. 現在の価格状況

| 項目             | 値                            |
|----------------|------------------------------|
| 現在レート（Bid/Ask） | 159.193 / 159.218（接続ターミナル実況） |
| 本日オープン         | 159.474                      |
| 本日高値 / 安値      | 159.514 / 159.136            |
| 前日終値           | 159.503                      |
| 年初来レンジ         | 145.482 ~ 163.988            |
| 本日騰落           | 約 -0.2%（本日は軟調）               |

現在は159.2前後で、本日の安値圏（159.14～159.2）付近まで押されています。昨日まで159.5台まで回復した後の小幅な調整局面です。

##### 2. 直近の値動き（重要イベント）

- 7月下旬：年初来高値163.988（7/23）まで上昇
- 7/30～8/3：日米協調介入（ニュース報道）で急落。8/3に安値155.227まで暴落（3日間で約8円下落）
- 8/4～8/13：介入後のリバウンド。8/13に159.569まで回復
- 8/14（本日）：159.5前後から緩やかに下落し、現在159.2近辺で推移

つまり「介入による急落→反発による回復」の一巡目が終わり、上値の節目160円を前に足踏みしている状況です。

### 3. テクニカル分析

主要レベルの整理

| 種別   | 価格帯         | 備考                   |
|------|-------------|----------------------|
| 上値抵抗 | 160.00      | 心理的節目・買い目標（複数機関が指摘）  |
| 上値抵抗 | 159.5～159.6 | 8/12～13の高値（直近レジスタンス） |
| 上値抵抗 | 160.4～160.6 | 6月高値ゾーン              |
| サポート | 159.0～159.1 | 本日安値・直近サポート（現在テスト中）  |
| サポート | 158.6       | 8/12安値               |
| サポート | 157.2～157.3 | 8/7安値                |
| 大底   | 155.2       | 8/3の介入安値             |

トレンド判定（簡易計算）

- 20日移動平均：約160.4 → 価格はこれを下回っており、短期は調整トレンド
- 200日EMA：155～156ゾーン（ニュースでも「200日EMAフロアが維持」と報道） → 価格はこれを大きく上回っており、中期は上昇トレンド継続
- 直近モメンタム：8/3安値以来の「高値切り上げ」は継続中

総合判断：中期トレンドは上、短期は調整。155円の大底から160円の節目を目指す「リバウンド」が進行中ですが、20日線（160.4）手前で上値が重くなっています。

### 4. ファンダメンタル・ニュース

直近24時間～1週間の主なニュース：

- 本日（8/14）：「USD/JPY買い手は160円突破を目標」（DailyForex） — 上値指向の見方が優勢
- 8/11～12：「FRB利上げ観測の後退で円は弱含み」（City Index） — ドル金利差が円安要因
- 8/10：「米CPIと介入リスクがドル買いを警戒させる」 — 上値では介入懸念が重し
- 8/3：「日米共同介入が円を押し上げ」 — 155円までの急落は介入によるもの
- 8/1：ベッセント米財務長官のメモに「最大100億ドルの円買い介入プラン」の報道（Benzinga） — 再介入リスクが煽る
- CFTCポジション：ドルロング急減・円ショート解消（8/10） → 投機筋の円売りは大幅に縮小済み

需給の構図：

- 円安要因：FRBの利下げ観測後退 → 日米金利差維持、リスク選好
- 円高要因：政府・日銀の再介入リスク（160円超で発動との警戒）、地政学リスク（ホルムズ海峡）

## 5. シナリオと注目ポイント

強気シナリオ（円安継続）

- 159.5～160.0を明確にブレイク → 160.4（6月高値） → 162～163を再トライ
- 条件：米経済指標の強い結果、介入発動なし

弱気シナリオ（調整継続）

- 159.0を割り込む → 158.6 → 157.2へ下落余地
- 再介入報道や米インフレ鈍化で円高圧力が強まった場合

本日以降の注目

- 160円の節目（買い目標・介入警戒ラインの両方の意味を持つ）
- 米CPI・雇用関連指標（インフレがFRBの政策姿勢を左右）
- 介入関連の報道・財務省高官の発言（8月上旬に実際に発動されたばかりで、再発動リスクは依然高い）

## 6. まとめ

USDJPYは介入安値155.2からの反発局面の終盤にあり、160円を挟んだ攻防が当面の焦点です。中期トレンドは上向きですが、160円手前の上値抵抗と政府介入リスクが重なっており、一方向に傾きにくいレンジ相場が続く可能性が高いと見られます。

 本分析は公開マーケットデータ・ニュースに基づく参考情報であり、投資助言ではありません。実際の取引判断はご自身の責任で行ってください。

**質問2：「ボラティリティが高く、トレンドが続きそうな通貨ペアを第3位まで理由を付けて列挙してください。」**

AIの回答（原文）

複数ペアの日足データ（約3ヶ月・65本）を取得し、以下の指標で比較しました。

- ボラティリティ：直近3週間の平均日足レンジ（％）
- トレンド方向性（ER※）：直近10日間の「正味の値動き ÷ 総移動距離」。1.0に近いほど一方向に綺麗にトレンド
- 3ヶ月騰落率：5/15終値 → 8/13終値

※Kaufman Efficiency Ratio（効率比）

## 比較結果

| 通貨ペア   | 平均日足レンジ | 直近10日ER   | 3ヶ月騰落率 | トレンド状況          |
|--------|---------|-----------|--------|-----------------|
| GBPJPY | 約0.8%   | 0.86      | +1.7%  | 強いV字回復（上昇）      |
| AUDJPY | 約0.9%   | ≈1.0      | -0.8%  | 完璧な方向性の回復（上昇）   |
| USDJPY | 約0.9%   | 0.65      | +0.5%  | 上昇回復、160円攻防     |
| EURJPY | 約0.8%   | 0.80      | -0.4%  | 回復中（GBPJPYより弱い） |
| USDCHF | 約0.7%   | 0.38      | +3.5%  | 中期上昇（直近は調整混じり）  |
| AUDUSD | 約0.8%   | 0.41      | -1.2%  | 緩やかな上昇          |
| GBPUSD | 約0.5%   | 0.43      | +1.2%  | レンジ             |
| EURUSD | 約0.4%   | 低い        | -0.8%  | レンジ             |
| USDCAD | 約0.4%   | 0.65（下向き） | +1.3%  | 下げ一服            |
| NZDUSD | 約0.8%   | 0.16      | +0.2%  | 方向感なし           |

### 🏆 第1位：GBPJPY

- ボラティリティ最高クラス — 日足レンジ平均約1.7円（0.8%）、介入直後は1日で5.9円も動く荒さ
- トレンドの方向性が明確 — 直近10日のER 0.86。8/3安値209.6円から+2.6%をほぼ一方向で回復
- トレンド継続の原動力が二重 — ポンドの底堅さ（GBPUSDが1.34台を維持・英利上げ観測）＋円安回帰（介入で解消された円ショートの再構築）。両通貨のファンダメンタルが同じ方向に作用

### 🏆 第2位：AUDJPY

- 最も「方向性が完璧」 — 直近10日ER≈1.0。8/3安値109.2円から112.6円まで陰線ゼロに近い綺麗な上昇（計測した9ペア中で最高の効率）
- ボラティリティも高水準 — 平均日足レンジ約1.0円（0.9%）、介入時は2.8円の大陽線

- 「まだ戻り切っていない」余地 — 3ヶ月ではまだ-0.8%で、介入前水準（114円台）まで約2円の戻り余地。AUDUSDも6月安値から+2.8%回復しており、豪ドル高＋円安のダブル効果が続けばキャリートレード再開で加速しやすい

### 📌 第3位：USDJPY

- 高ボラティリティ — 平均日足レンジ約1.4円（0.9%）。7/30～8/3の介入で1日5.4円の急落→急騰を経験
- トrendは上方向に明確 — ER 0.65で、介入安値155.2円から159.5円まで一貫した上昇。複数のアナリストも「買い手は160円突破を目標」と指摘
- トrend継続の材料が揃う — FRB利上げ観測の後退、介入で解消された円ショートの新構築、200日EMA（155円台）を明確に上回る中期トrend

⚠️ 注意：唯一の弱点は政府・日銀の再介入リスク（8/3に実際に発動済み、160円超で再発動の警戒）。トrendは強いが「介入ショック」で一瞬で崩れる可能性があるため、上値追いつの際は留意が必要です。

### 補足（4位以下）

- USDCHF：3ヶ月+3.5%と中期トrendは最強だが、直近ERが0.38と調整混じりで「継続性」の点で3位以下
- EURJPY：回復の方向性は良い（ER 0.80）が、ボラティリティ・勢いともGBPJPYに劣る
- AUDUSD・GBPUSD：ボラティリティは中程度で、トrendというよりレンジ寄り

※本分析は公開日足データに基づく統計的な参考情報であり、投資助言ではありません。為替市場の急変や介入リスクにより、トrendが反転する可能性があります。実際の取引判断はご自身の責任で行ってください。

### 質問3：「スキャルピング、デイトレで分けて列挙。」

#### AIの回答（原文）

前回の分析結果（ボラティリティ・トrend方向性）に加え、流動性・スプレッド（メジャーほど狭い）を考慮して、スキャルピングとデイトレードに分けてランキングされました。

#### ⚡ スキャルピング向け（秒～数分ホールド）

スキャルピングで重要なのは「トrendの強さより、スプレッドの狭さ・流動性・値動きの大きさ」とのことです。

| 順位 | 通貨ペア   | 理由                                                                          |
|----|--------|-----------------------------------------------------------------------------|
| 1位 | USDJPY | メジャーでスプレッド最狭級・流動性最高。しかも介入後の日足レンジ0.9%と動きが大きい。「狭いスプレッド+大きい値幅」の両立はスキャルに理想      |
| 2位 | GBPUSD | スプレッドはやや広いが、直近の日足レンジは0.5%とメジャーの中では大きめ。朝方・欧州時間に方向性のある動きが出やすい                 |
| 3位 | EURUSD | スプレッド最狭・流動性世界最強でエントリーコスト最小。ただしボラは0.4%と低めなので、レンジスキャル（上下の往復を拾う）向き。トレンド追いには不向き |

💡 JPYクロス（GBPJPY・AUDJPYなど）はスキャルピングには不向き、とのコメントも添えられました。値幅は大きいもののスプレッドが広く（GBPJPYで数pips）、スキャルの回転効率が悪くなるためです。

### 📈 デイトレード向け（数分～数時間ホールド・当日決済）

デイトレでは「スプレッドの広さを吸収できる大きな値幅+明確なトレンド」が重要とのこと、質問2の分析結果がそのまま活かされていました。

| 順位 | 通貨ペア   | 理由                                                                        |
|----|--------|---------------------------------------------------------------------------|
| 1位 | GBPJPY | ボラ最高クラス（日足レンジ0.8%・介入時5.9円）+直近ER 0.86の強い上昇トレンド。欧州時間にポンドと円の両方が動き、1日の値幅が大きい  |
| 2位 | AUDJPY | ER≈1.0と計測9ペア中で最も方向性が完璧。介入安値109.2円からの回復が続いており、順張りで乗りやすい。ボラ0.9%で値幅も十分       |
| 3位 | USDJPY | ボラ0.9%・ER 0.65と高水準。160円の節目を巡る攻防がテーマで、ブレイク方向に乗れば大きな1日が狙える。介入リスクは逆張りの材料にもなる |

💡 補欠として、USDCHF（3ヶ月+3.5%の中期トレンド最強、トレンドフォロー向き）とEURJPY（ER 0.80と回復は綺麗）もデイトレ候補に挙げつつ、直近はUSDCHFが調整混じり、EURJPYはGBPJPYより勢いが弱いいため3位までには入らなかった、という説明も添えられていました。

### まとめ表

| 目的 | 1位 | 2位 | 3位 |
|----|----|----|----|
|----|----|----|----|

|         |        |        |        |
|---------|--------|--------|--------|
| スキャルピング | USDJPY | GBPUSD | EURUSD |
| デイトレード  | GBPJPY | AUDJPY | USDJPY |

- スキャルピング＝「狭いスプレッドのメジャー」が基本。USDJPYはボラも併せ持つので最有力
- デイトレード＝「高ボラ＋トレンド継続中のJPYクロス」。GBPJPY・AUDJPYが順張りの主役
- USDJPYは両方に顔を出す万能ペアだが、スキャルでは「動きを拾う」、デイトレでは「160円ブレイクを狙う」と役割が変わる

⚠ スキャルピング・デイトレードとも短期の値動き依存度が高く、介入・経済指標発表時の急変には特に注意が必要です。本分析は参考情報であり、投資助言ではありません。

質問はたったの3回、合計しても数十文字です。それだけで、ここまでの分析が返ってきました。

## 「ここまでできる」活用事例 5選

ここからは、実際に検証できた範囲で「ここまでできるのか」と思ってもらえそうな使い方を5つ紹介します。①～③はAIボタン単体でできること、④⑤はMT5が対応している「MCP」という仕組みを使って、外部のAIエージェントを別途つなぐ発展的な使い方です。

### ① 取引履歴を自動で「勝ちパターン・負けパターン」に分解する

1. ★アイコンからAIアシスタントを開く
2. 「過去の取引履歴から、勝ちパターンと負けパターンを分析して」と入力する
3. AIが自動で取引履歴を読み込み、傾向を分析して返答する
4. 「勝率が高い時間帯は?」「負けているときの共通点は?」のように、そのまま深掘りして質問を重ねる

自分でExcelに取引履歴を書き出して集計する手間が、丸ごとなくなります。

### ② チャットで指示するだけでEAを自動生成し、バックテストまで行う

1. AIアシスタントを開く

2. 「移動平均線がゴールデンクロスしたら買い、デッドクロスしたら決済するEAを作って」のように、条件を日本語で伝える
3. AIがMQL5コードを生成する
4. MetaEditorにコードが反映される（反映されない場合はコピーして貼り付ける）
5. MetaEditor上で**F7キー**を押してコンパイルする
6. 「ストラテジーテスター」で生成したEAを選び、バックテストを実行する
7. 「このバックテスト結果を分析して」とAIに聞くと、評価コメントがもらえる

ここで生成されるコードは、あくまで動作確認レベルです。実際の運用に使う前には、必ずデモ口座で十分に検証し、コードの中身も自分の目で確認してください。

### ③ 通信トラブルの原因を自分で調べて教えてくれる

1. AIアシスタントを開く
2. 「EAをチャートに適用しても動きません」のように、起きている症状をそのまま伝える
3. AIがMT5の通信状況、接続先の口座、エラーログを自動で確認し、原因を回答する
4. 回答に沿って設定を見直す

サポートに問い合わせる前に、まずAIに聞いてみるという選択肢が増えます。

### ④ 【発展編】チャットアプリから、外出先でMT5を操作する

ここから先は、MT5単体の機能ではありません。MT5が対応した「MCP」という規格を使って、OpenClawやClaude Codeのような外部のAIエージェントを別途つなぐ必要があります。多少の環境構築が必要になるため、①～③に慣れてから挑戦することをおすすめします。

以下はTelegramでの手順ですが、OpenClawはLINE・Discord・Slack・WhatsAppなど20以上のチャットアプリに対応しています。普段使っているアプリに置き換えても、やることは同じです。

1. 常時起動しているPCまたはVPS上にMT5を用意する
2. MT5の「ツール」→「オプション」→「MCP」タブを開く
3. 「内部サーバーを有効化」にチェックを入れる
4. 表示される接続アドレスとAPIキーを控える（第三者に知られないよう管理する）
5. MCPに対応したAIエージェント（OpenClawなど）を別途セットアップする
6. セットアップの過程で、使いたいチャットアプリ（LINE・Telegram・Discordなど）と連携させる

7. AIエージェントの設定画面に、手順4で控えた接続アドレスとAPIキーを入力する
8. チャットアプリから「ポジションを確認して」と送ると、AIエージェントがMT5に問い合わせて結果を返信してくれる

自宅のPCの電源を切っていても、外出先のスマホから自分の口座の状況を確認できるようになります。

## ⑤【発展編】シグナル投稿を、AIが読み取って発注案を作る

④の環境が整っていることが前提です。こちらもTelegramに限らず、④で選んだチャットアプリでそのまま実現できます。

1. シグナルを受け取りたいチャンネル・グループを、AIエージェントの監視対象として追加する
2. 「このチャンネルの投稿がトレードシグナルの形式なら、内容を読み取って提案して」とAIエージェントに指示しておく
3. シグナル投稿があると、AIが通貨ペア・売買方向・エントリー・損切り・利確を自動で読み取る
4. 内容がチャットアプリに提示される
5. **発注を承認してから実行するモード**にしておく（全自動発注は資金管理上のリスクが高いため、推奨しません）
6. 承認すると、AIエージェントがMT5に発注する

決まった書式でなくても、AIが文章の意味を読み取って解釈してくれるのが従来との違いです。

---

## 注意点・限界

- ①～③で生成されるEAのコードは、実運用にそのまま使える品質ではありません。必ず人の目でも確認してください
  - 無料で使えるのは現時点でのMQL5 Liteプランです。将来的に条件が変わる可能性があります
  - ④⑤はMT5単体の機能ではなく、外部のAIエージェントとの連携が前提です。環境構築の手間がかかります。仕組み自体は実在しますが、この手順を実際に最後まで行った報告はまだ見つけられていません
  - 発注を伴う操作は、必ず確認してから実行する設定にしてください
-

## まとめ

MT5のAIボタンは、押せばすぐに使える範囲でも取引履歴の分析やEA作成の手間を減らしてくれますし、少し環境を整えれば、外出先からの遠隔操作までできるようになります。

まずは①～③から、実際に触ってみてください。